

口腔細菌が発がん物質を産生～日本の研究から

アセトアルデヒドはアルコール摂取と関連しているが、発がん性物質として知られており、舌苔が関係しているとも考えられている。そこで本研究では、口腔内のアセトアルデヒド濃度と舌苔の口腔細菌の特徴との関連について検討した。

健康な成人 39 例が対象となった。口腔内のアセトアルデヒド濃度はガスクロマトグラフィーで測定した。アセトアルデヒド濃度は細菌数の増加に伴って上昇した($p=0.048$)。また、アセトアルデヒドの濃度が最高の 6 例(HG 群)と最低の 6 例(LG 群)で細菌叢の特性を比較したところ、細菌の種類は HG 群のほうが LG 群よりも多かった($p=0.011$)。HG 群では、*Gemella sanguinis*、*Veillonella parvula*、*Neisseria flavescens* の相対生存量が LG 群より有意に高かった($p<0.05$)。

したがって、口腔内のアセトアルデヒドの濃度が高い人ほど細菌数が多く、さらに *Gemella sanguinis*、*Veillonella parvula*、*Neisseria flavescens* など特定の細菌が多く存在していることが明らかとなった。

出典:Journal of Applied Oral Science. 2019 Jun 13; 27: e20180635.